



2023年4月17日

公益財団法人
浜松国際交流協会
ご寄付担当者様

拝啓 時下、益々ご隆盛のこととお慶び申し上げます。

この度は、世界の医療団のトルコ・シリア地震緊急医療支援活動に対し、ご理解とご支援をお寄せいただきありがとうございます。このお志は現地での我々の支援活動を勇気付けるもので心より御礼申し上げます。

世界の医療団は1980年フランスで創設されて以来、医療へのアクセスから疎外された人々に対し、世界各地で人道医療支援を行っております。1995年の阪神淡路大震災の際に緊急医療チームが派遣されたことを契機に世界の医療団 日本は設立されました。以降、医療関係のボランティアの募集・派遣、支援者の開拓を中心に、日本国内でも活動を続けております。

また、現地の状況を広く社会に認知させる提言活動（アドボカシー）も重要な使命の一つとして掲げております。皆さまからのご支援は、医療援助を必要とする人々に対しての物理的な援助となるだけでなく、私ども世界の医療団で活動する世界中のスタッフにとり、大きな心の支えとなるものです。この度お寄せ頂きましたご厚情に、世界の医療団の活動に携わる全てのスタッフを代表し、ここに深く御礼申し上げます。

世界の医療団は認定NPO法人であり、お寄せいただきましたご寄付は寄付金控除の対象となります。受領いたしましたご寄付の領収証については、恐れ入りますが弊団体は年間一括での送付とさせていただきます。そのため、2023年中にいただきましたご寄付の領収証は、翌2024年1月下旬頃をめどに送付いたします。この度のご寄付についても同様となりますので、何卒ご了承いただきたくお願い申し上げます。

弊団体の活動につきまして皆さまにより深くご理解いただけますよう、随時活動レポートを送付しております。本日は最新のレポートと、2021年の年次報告書（2022年度年次報告書は、今月末に刊行予定）をお届けいたしますので、ぜひご覧ください。

今回のトルコ・シリア地震の緊急対応のような国内外での保健医療支援活動を随時可能にするため、ぜひ継続寄付を行う法人パートナーになっていただけましたら幸いです。ぜひご検討くださいませ。

末筆ながら、改めて今回のご寄付に御礼を申し上げますと共に、ご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

敬具

世界の医療団
理事長 ガエル・オスタン

トルコ・シリア地震で傷ついた人々へ、 心身のケアを続けるために 世界の医療団の活動を支えてください



2023年2月6日午前4時17分（現地時間）、マグニチュード7.8の地震がトルコとシリアを襲いました。

世界の医療団は、数年前からシリアでの紛争の影響下にある人々への支援を行っており、その活動拠点はまさに今回の地震の被害地域にありました。そのため、自らも被災者であるスタッフも多い中で開設した診療所には被災者が押し寄せました。スタッフの一人、ジャスパー・カイパーは「ひとりでも多くの人を救えるよう、できる限りのことをします」と震災直後に語り、彼の言葉のとおり、世界の医療団の緊急支援チームは、昼夜を問わず人命救助に奔走してきました。緊急支援に引き続き、トルコ・シリア両地域で被災した人々に寄り添い、地域再建への手助けとして医療システムの再構築など長期的に支援します。

どうか、私たちの活動に力を貸してください。



継続支援について

被災地の人々の心身をケアし、 支えています



トルコでは

世界の医療団は2016年からトルコ・ハタイ県でシリア難民への人道医療支援を実施していました。トルコ南部アンタキヤにある世界の医療団のオフィスは倒壊、すべてのスタッフが家を失いました。地震発生直後、トルコ西部イズミルとイスタンブールから心理療法士、カウンセラー、フィールドコーディネーター、通訳、運転手などからなる移動医療チームが、関係する政府機関との協力のもと、被災地に向かいました。

被害の大きかった南部アンタキヤでは、世界の医療団のスタッフが被災者に声かけをおこない、こころのケアの応急処置を進めています。ハタイ県では、100

名ほどのスタッフがシフトを組んで支援活動を行っています。

移動医療チームは、ハタイ県の都市部と農村部で、健康相談や心理サービスを提供しています。政府機関や他の援助団体がサービスを提供できない地域で、テント単位で現地支援を提供しています。

また、女性や子どもが来られる安全なスペースを設置し、個別およびグループカウンセリングをおこなっています。



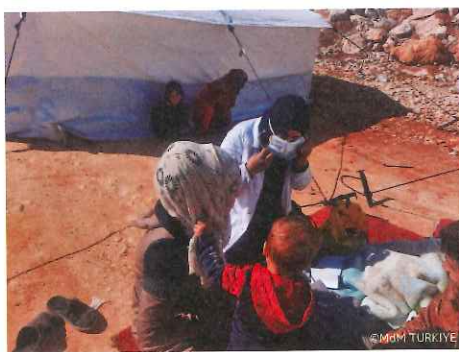
トルコ南東部：携帯電話のあかりを頼りに診察します（2023年2月）



シリアでは

この地震によりシリア北西部アフリンにある世界の医療団のヘルスセンターが被害を受けましたが、医療が必要な人々のため、スタッフが緊急の対応にあたっています。アレッポ県の3つのクリニック、イドリブ県の5つのクリニックで、320名ほどのスタッフが医療支援を行っています。

シリア北西部イドリブ県
（2023年2月）



この地震で大切な人を失った悲しみ、住み慣れた町・日常が一瞬にしてなくなってしまったショックなど、被災した人々の苦悩ははかり知れません。東日本大震災時と同様に、私たちは彼らに寄り添い心身のケアを続けます。ゴールは遠く長い道のりになりますが、支援は走りだしました。どうか私たちの活動に力を貸してください。

